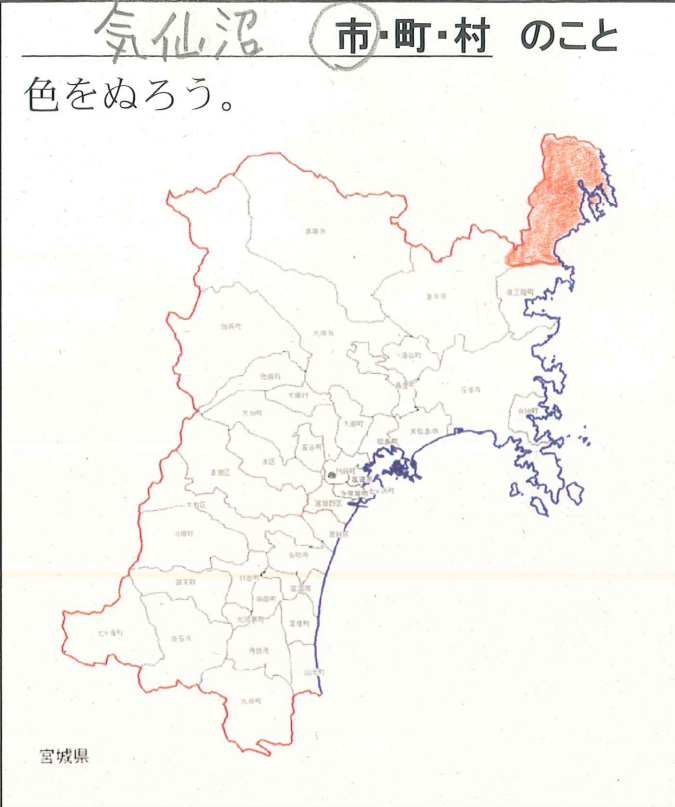


# 自慢のふるさと宮城県！

へいせい25年1月4日(金)の  
河北 七んぶん  
しんぽう



わかったこと・かんそう  
サケの卵がふ化してよかった  
です。生まれた稚魚たちが  
ぶしに川にもびれるといいと  
思いました。

おうちの人から  
気仙沼の復興につながるといいね。

## 命すくすく 気仙沼・サケふ化

気仙沼市本吉町の小泉川鮭  
増殖組合のふ化場で、採卵さ  
れたサケの卵から続々と稚魚  
がかえっている。新年早々の  
命の誕生に、関係者は目を細  
めて見守っている。

水温12度、暗い仮設テント  
の水槽の中、自力で卵の膜を  
破って現れたサケは体長2センチ  
ほど。細い半透明の体に栄養  
分をたっぷり含んだオレンジ  
色の「さいのう」を付け、元  
気に泳いでいる。

県内有数のサケの川として  
知られる津谷川(別称小泉川)  
は、震災の津波で番屋やふ化  
場が流されたが、組合員が一  
丸となって放流事業を継続さ  
せてきた。

ふ化場の芳賀忠雄さん(73)  
は「この時期は温度管理など  
に神経を使いますが、わが子  
のようにめんこい」と、小さ  
な命の誕生を喜ぶ。

組合は、体長5センチにな  
る来月から放流を始める。こ  
とは震災前の7割に当たる  
1000万匹の放流を目指し  
ており、正月返上で「子育て」  
の作業にあたるという。

卵からふ化し、小さい容器の中で泳ぎ回るサケ。  
被災地に明るい希望をもたらしている